

ミサイル防衛庁長官の議会証言(抜粋)

空軍中将オベリング3世

05年3月15日、米下院軍事委員会戦略戦力小委員会

「昨年、地上配備の中間飛行段階（ミッドコース）防衛、およびこの統合システムとしてのイージス艦による監視・追跡能力を初期実地配備することによって、我々は、北朝鮮の長距離ミサイルの脅威に対して合衆国の限定的な防衛能力を確立しようとしている。同時に、我々は、より短い射程の脅威に対して連合国軍隊、同盟国、友邦国を守るために我々が持っている移動式迎撃衛体を増強しようとしている。同盟国や友邦国と協力して、我々はこの防衛能力を進化させ、あらゆる飛行段階における、あらゆる射程の脅威に対してMD力を改善し、また、やがては追加的な迎撃体、センサー、そしてMDの層をもって拡大する計画である。」
（「ミサイル防衛のアプローチ - 層状の防衛」の項目から）

「昨年、我々は『2004年末までに、統合されたBMDシステムの初期要素を実地配備するだろう』と述べた。我々は、ほぼすべての目的を達成した。アラスカのフォート・グリーリーのサイロに6発、カリフォルニアのバンデンバーグ基地に2発の地上配備迎撃体を設置した。アラスカのコブラ・デーレンレーダーの高性能化と、6隻のイージス艦の長距離監視・追跡支援のための改造を完成した。これらの諸要素は、発射制御システムに完全に結合され、広範囲の指揮・統制・戦闘管理・通信インフラストラクチャーによって支援されている。」

「2004年10月以来、米海軍の軍艦が作戦艦隊に入る前に認可されるときに用いられるのと同様な試運転あるいはチェックアウトを行っている。・・・イージス艦は、我々の戦闘管理システムに長距離監視・追跡データを提供するために日本海に定期的に配置されている。」
（「ブロック2004の初期的実地配備」の項目から）